

08月度 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">例会</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">個人</span> 山行報告書		報告者	神戸和広	参加 メンバー	CL:神戸 部外者
		報告日	09/11		
山域	北海道東大雪山	山行日	13年 08月 15日 (木)		
山名	石狩岳				

山行目的	北海道の二百名山を楽しむ	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	--------------	--------------------

配布先
集会:12
山行: 1 リーダー
原紙: 集 会担当者



2.5 万分の 1 地図 : 石狩岳 (GPS 軌跡なし)

08/15 弱雨、
5:35 二十一の沢登山口 発
6:15 渡渉点 一本
6:35 尾根取り付き
7:10 一本
8:00 一本
8:50 一本
9:40 音更山分岐
10:25-40 石狩岳頂上 一本
11:10 音更山分岐
11:40 一本
12:30 一本
13:30 一本
14:30 登山口着

〈山行報告〉 一昨年、夏山合宿の後に計画していた石狩岳に再挑戦。今回は弱雨が予想されただけで予定通り登山した。

前夜、糠平温泉でキャンプも考えたが、食事と買い出しの件があり山麓の上士幌町にベースを置いた。翌朝明るくなった4時半に上士幌町を発つ。登山口には先行者が二組、そして手前の音更山登山口にも5人パーティがいた。

先行者の後にゆっくりスタート。平坦だが笹で見通しの効かない道を熊鈴の代わりに口笛を吹き進んだ。渡渉点を過ぎ、登山開始一時間で尾根取り付きに着。ここから本格的な登りだ。初めはジグザグで尾根に乗った後すぐには急登は無く、先行者に追いつきそうになった頃、同行者がペースダウンした。笹漕ぎで疲弊したらしい。

だんだんフィールドアスレチックの如く腕も使う段差のある道となり、這ってないハイマツも顔辺りに枝を伸ばすようになったが、道自体はしっかりして迷う所は無かった。

標高差 800m を約 3 時間かけて、稜線に辿りつく朝からのガスで視界は 20m。足元の高山植物だけが楽しみとなった。

最高点まで行く気も無く、風のある頂上では写真だけ撮って早々に退散した。

確認 (リーダー)
神
12/08/21
戸
作成 (報告者)
神
12/08/21
戸

〈リーダー所見〉 安近短(安直に近くまでアプローチし最短コース)を取るのには本意でないが、日頃運動をしていない友人と一緒に登った。それでも 4 組のみの登山者! 人気が少ない。雨の日に登って楽しいことは無いが、日帰りでも無い限り雨の登山は必ずある。滑りやすくなった登山道に応じた歩き方が必要になりよい体験だった。

熊対策には鈴だけでは不安だ。



登山口  
(山頂は右のガスの中)



石狩岳山頂